

浜松市新清掃工場及び新破碎処理センター建設に係る
事後調査報告書について

●事後調査とは

- ・ 環境影響評価の予測及び評価の結果が妥当であったか否か、計画通りに実施した環境保全措置により期待された効果が得られたか否かを検証し、必要に応じて適切な追加の環境保全措置を検討し講じるための調査
(浜松市環境影響評価技術指針マニュアル P47)

●事後調査報告書とは

- ・ 対象事業に係る事後調査を行った後、事後調査の結果について作成したもの
(浜松市環境影響評価条例 (以下、「条例」という。) 第 41 条)

●市長の求めについて

- ・ 市長は対象事業に係る環境影響の程度が著しいものとなるおそれがあると認めるときは、環境の保全の見地から必要な措置を講じるよう求めることができる。(条例第 46 条第 1 項)
- ・ 対象事業者は、措置を講じたときは市長に報告しなければならない。(条例第 46 条第 4 項)

●報告内容

平成30年度に事後調査を行った内容

事後調査の項目		調査内容	事後調査の結果
水質	工事に伴う水の汚れ	水素イオン濃度 (pH)	<ul style="list-style-type: none"> ・工事排水の排水先で自主管理目標値を達成していない日があるが、工事と関係のない沢においても同様の状況が発生しているため、当事業による影響とは考えにくい (事後調査報告書 3-2) ・自主管理目標値を満たすよう調整してから排水するため、影響は小さいと考えられる
	工事に伴う濁水	SS (濁度換算値)	自主管理目標値を満たすよう調整してから排水するため、影響は小さいと考えられる
動物	土工事等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・注目すべき種の生息状況 ・移設先 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事箇所付近にアズマヒキガエルの幼生・卵塊が確認されたため、仮産卵池を設けて移設した ・移植場所を整備中
		水生生物	<ul style="list-style-type: none"> ・スナヤツメ類及びキボシツブゲンゴロウが消失したが、工事の影響以外の要因により生息環境が変化したことによるものと考えられる (報告書 3-14 3-18) ・その他の水生生物については、工事による影響は見られない
		希少猛禽類 (主にクマタカ)	工事着手による影響は見られない
植物	土工事等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・注目すべき種の生育状況 ・移植先 	移植後に一部が消失した種がみられるため、引き続き観察する必要がある
生態系	建設機械の稼働 土工事等の実施	希少猛禽類 (主にクマタカ)	工事着手による影響は見られない
	土工事等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・指標種の生息・生育状況 ・湧水湿地の植生 ・流量 	工事着手による影響は見られない

●市民等（環境の保全の見地からの意見を有するもの）からの意見

- ・環境の保全の見地からの意見を有するものは、意見書を提出することができる。
（第44条第1項）
- ・意見書の提出があった場合には、対象事業者は見解書を市長に提出しなければならない。
（条例第45条第1項）
- ・提出期間：令和元年5月20日～同年6月18日まで（6月14日時点で意見書の提出無）

●「市長の求め」について

- ・現時点において、工事着手以降に著しい環境影響は発生していないため、追加の環境保全措置の求め（市長の求め）は行わないものとする。
- ・その他、事業を進めるに当たっては、当該事業に係る事後調査計画書（H30.1）に対する市長意見等を踏まえ、著しい環境影響が生じないよう配慮を求めることとする。

浜松市新清掃工場及び 新破碎処理センター建設に係る 環境影響評価 事後調査報告（2018年度）

目次

1. 工事計画.....	1
2. 事後調査の実施概要.....	2
3. 事後調査結果.....	3
3-1 水質.....	3

令和元年6月17日
浜松市環境部廃棄物処理課

1. 工事計画

造成工事は、平成30年6月に着手して、令和3年度中に完了する予定である。

令和3年4月からは、新清掃工場工事及び新破砕処理センターの建設工事に着手し、令和5年11月に完了する予定である。

令和5年7月からは、外構工事に着手し、令和6年3月に完了する予定である。

表 工事工程（全体工程）

項目	年度	平成30年度												令和元年度											
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
造成工事																									
新清掃工場工事																									
新破砕処理センター工事																									
外構工事																									

項目	年度	令和2年度												令和3年度											
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
造成工事																									
新清掃工場工事																									
新破砕処理センター工事																									
外構工事																									

項目	年度	令和4年度												令和5年度											
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
造成工事																									
新清掃工場工事																									
新破砕処理センター工事																									
外構工事																									

注) 赤線は実績、黒線は予定を示す。

表 造成工事工程（平成30年度実績）

項目	年度	平成30年度											
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
造成工事	準備工												
	管理用道路工事												
	調整池堰堤工事												
	造成工事												
	法面工事												
	補強土壁工事												
	重力式擁壁工事												
	排水構造物工事												
	防護柵工事												

2. 事後調査の実施概要

事後調査の項目、手法、時期・期間及び調査地点は事後調査計画書（H30.1）に基づき、以下に示すとおりとした。

表 事後調査の実施概要

調査項目		調査地点	調査時期・期間
水質	工事に伴う水の汚れ	施工箇所内からの工事排水の先の沢 2地点 工事を実施しない沢 1地点	<ul style="list-style-type: none"> ■ 工事施工期間中の毎日1日3回（工事開始前、施工中、施工後） ● 平成31年1月15日～3月29日
	工事に伴う水の濁り		
動物	注目すべき種の生息状況	湧水湿地	<ul style="list-style-type: none"> ■ アズマヒキガエルの産卵時期 ● 平成30年4月18日 5月29日 ● 平成31年2月27日 3月19日
	水生生物	工事排水の排水先の河川5地点	<ul style="list-style-type: none"> ■ 夏季 ● 平成30年7月17～18日 ■ 秋季 ● 平成30年9月27日～28日
	希少猛禽類(主にクマタカ)	対象事業実施区域の端部から約1kmの範囲	<ul style="list-style-type: none"> ■ 行動確認調査 ● 平成30年 ● 2月11～14日 3月13～16日 ● 4月17～20日 5月15～18日 ● 6月11～14日 7月18～21日 ● 8月7～10日 ● 平成31年 ● 2月27～28日 3月19～20日 ■ 営巣中心域調査 ● 平成30年 ● 9月11～12日 10月23～24日 ● 11月12～13日 12月11～12日 ● 1月30～31日 2月27～28日 ■ 繁殖状況調査 ● 平成30年6月15～16日 ● 7月16～17日
植物	注目すべき種の生育状況	湧水湿地	<ul style="list-style-type: none"> ■ 夏季 ● 平成30年7月27日 ■ 秋季 ● 平成30年9月12日
生態系	湧水湿地の植生	湧水湿地	<ul style="list-style-type: none"> ■ 夏季 ● 平成30年7月27日
	湧水湿地の流量及び濁度		<ul style="list-style-type: none"> ■ 夏季 ● 平成30年7月27日 ■ 秋季 ● 平成30年9月12日 11月13日 ■ 冬季 ● 平成31年1月22日 ■ 春季 ● 平成31年3月19日

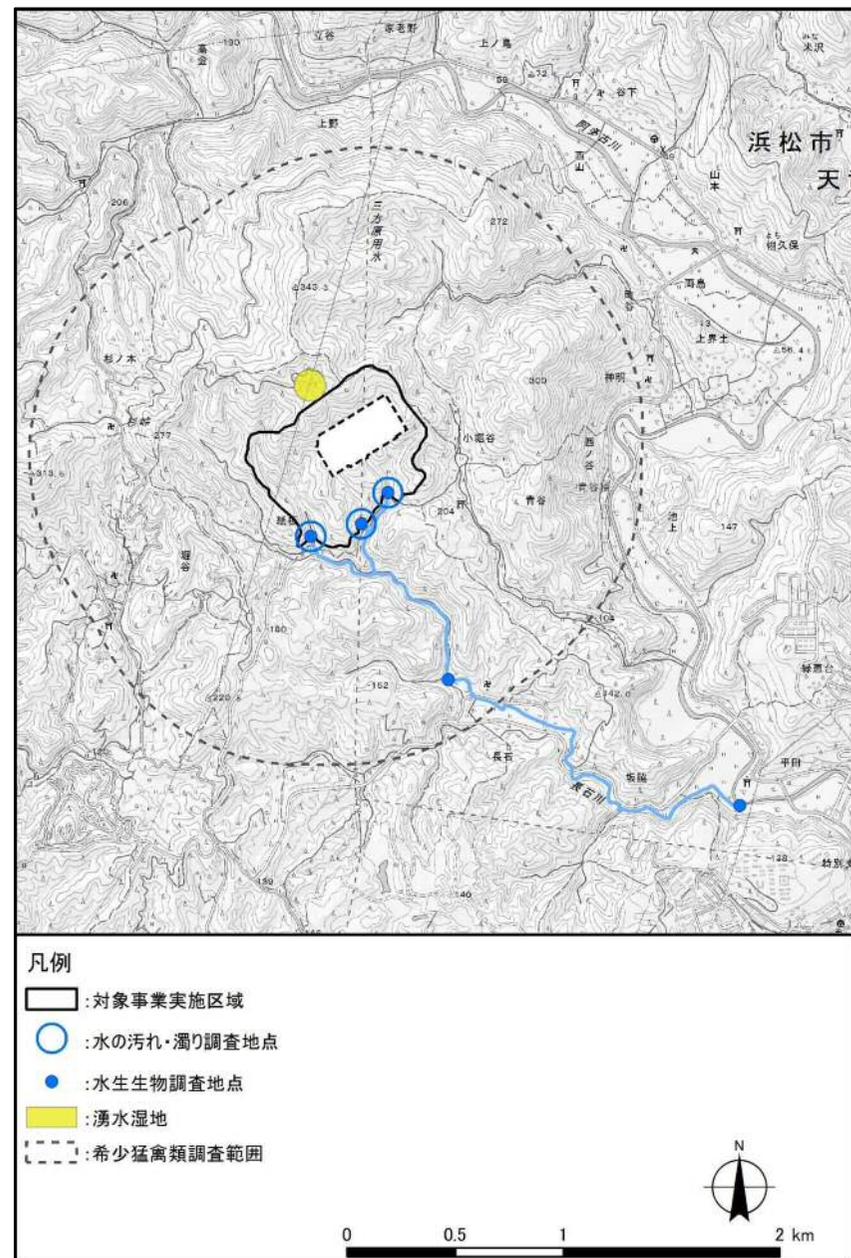


図 事後調査地点

3. 事後調査結果

3-1 水質

1) 工事に伴う水の汚れ及び濁り

① 調査概要

項目	内容
調査項目	水素イオン濃度 (pH)、SS (濁度換算値)
調査方法	ポータブル多項目水質計を用いる方法 SSは、濁度の測定値から換算する方法
調査地点	工事排水の排出先の沢2地点 (No.2、No.3) 工事を実施しない沢1地点 (No.1)
調査時期	工事施工中の毎日 (工事開始前、工事施工中、工事施工後の3回/日) とした。

② 調査結果

項目	自主管理目標値	調査結果	
水素イオン濃度 (pH)	6.5~7.8	工事排水の排出先の沢	• 6.72~7.91
		工事を実施しない沢	• 7.58~7.92
SS (濁度換算値)	70ppm	工事排水の排出先の沢	• 1ppm 未満~20.8ppm
		工事を実施しない沢	• 1ppm 未満

③ 予測結果との比較

予測項目		予測結果	自主管理目標値	事後調査結果
水 の 汚 れ 工 事 に 伴 う	水素イオン濃度 (pH)	自主管理目標値を満たす値まで調整して排水することから、影響は極めて小さいと予測する。	6.5~7.8	工事排水の排出先の沢 (No.3) で自主管理目標値を上回る日が確認されたが、工事を実施しない沢でも同様に自主管理目標値を上回る日が確認されたこと、また、事後調査期間中に、コンクリート打設等のアルカリ排水が発生する工事を実施していないことから、工事に伴う排水の影響は、極めて小さいものと考えられる。
	SS (濁度換算値)		70ppm	自主管理目標値を満足していることから、工事に伴う排水の影響は、極めて小さいものと考えられる。

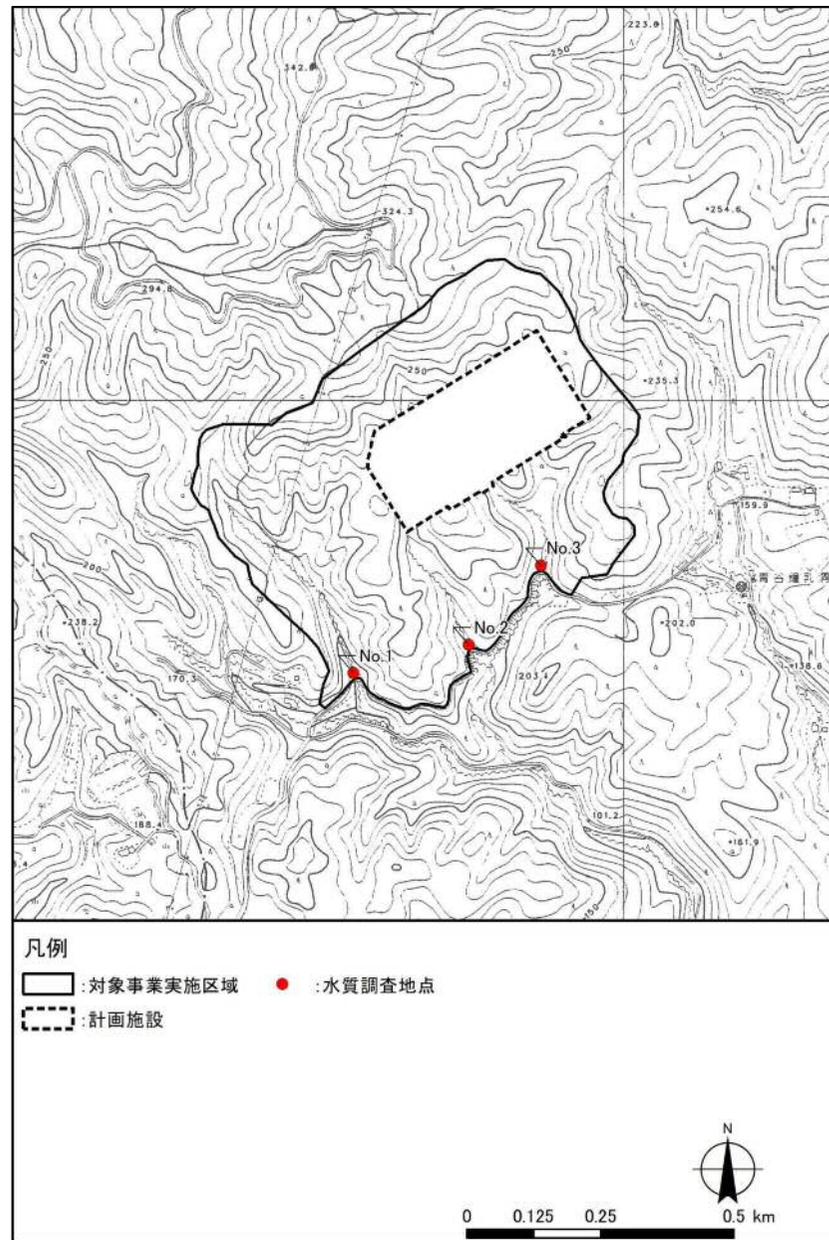


図 調査地点

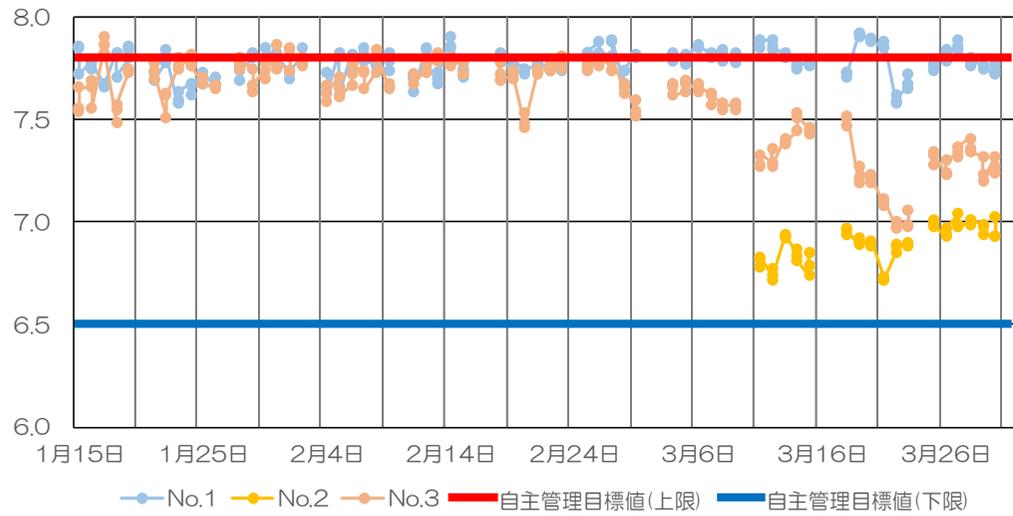


図 pH 調査結果

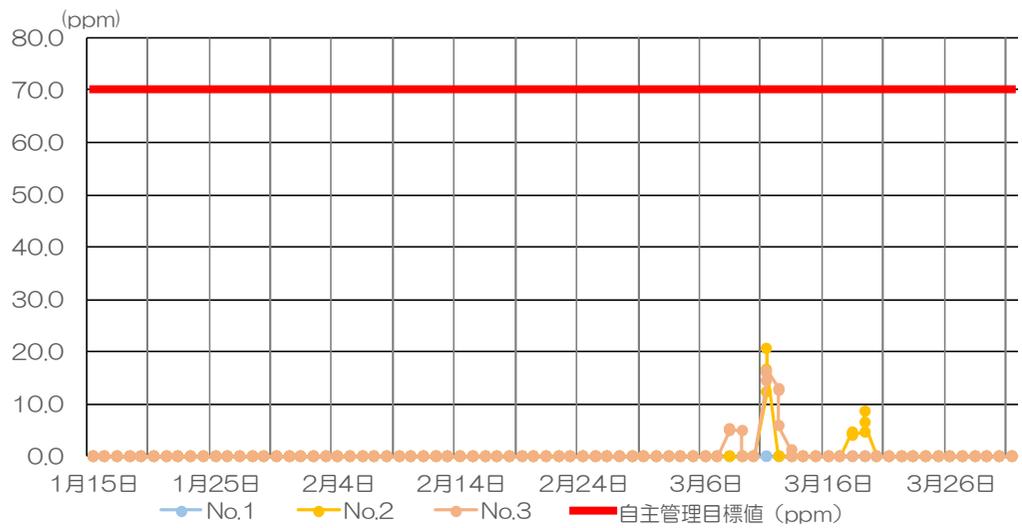


図 SS (濁度換算値) 調査結果